

国際シリーズ「世界への扉」(1) Inbound

シンガポール技術者協会を迎えて

Friendship Conference between IES and IPEJ

昨年（2016年）11月に衛生工学部会の会員有志がシンガポールで見学研修を行った。その研修での訪問を機に、シンガポール技術者協会と日本技術士会の相互交流が促進された。

この交流の一環として、このたびシンガポール技術者協会の一行が日本への視察研修を実現し、その中で今年（2017年）5月17日に日本技術士会との初めての交流会議を行った。本誌でその概要を報告する。

Members of Environmental Engineering Department of IPEJ visited IES, The Institution of Engineers, Singapore, in November, 2016, from then mutual exchange between IES and IPEJ has been encouraged.

This time, members of IES came to Japan to observe many industrial aspects in Japan, and IPEJ could have a conference with 18 engineers of IES members on 17th May, 2017. We report the outline of this conference.

キーワード：IES, International Cooperation, Agreement, Memorandum of Understanding

1 衛生工学部会の功績

前述の菅原技術士の報告（前2ページ）にあるように、2016年11月に衛生工学部会有志でシンガポールの視察研修を行った際に、シンガポール技術者協会（以下IES）を訪問し、日本技術士会（IPEJ）との相互交流の扉を開いてくれた。

今回IESが約1週間の予定で日本での産業視察のツアーを企画し、その中にIPEJへの表敬訪問の要望があり、本年5月17日にIES-IPEJ友好会議の開催が実現した。

IESの希望を受け、衛生工学部会がIPEJとの会議のみならず、他の関係企業、機関との見学会の交渉など、労をいとわず調整役を引き受けてくれた。ここに改めて感謝の意を表したい。



写真1 会議の様子

2 IES との会合準備

IES-IPEJ 友好会議の準備は、国際委員会が担当した。

会議の会場は、神谷町からほど近い虎ノ門ヒルズ手前の貸会議室を利用した。IPEJ 側の出席者の選定、アジェンダの設定、パソコンやプロジェクターなどの設備の準備など、ほぼ3カ月間に渡って準備を行った。

IES 側の出席者メンバーが直前まで決まらなかったが、会場の座席数も考慮し、当日は約40名のツアーメンバーのうち、18名のエンジニアがIPEJ との会議に出席してくれた。

3 交流会議の概要

IES-IPEJ 間の初めての合同会議であるため、相互の紹介を基本にしたアジェンダを作成した。

会議室からの緊急避難路の説明などの Safety Moment に続いて、出席者全員の自己紹介から会議をスタートした。稲垣国際委員会副委員長の進行の下、まずIPEJ 側から小林国際委員長の挨拶に続いて、私がPPT を使って日本の技術士制度の説明とIPEJ の紹介を行った。

IES 側の注目点は、以下のものであった。

- ① 日本の技術士は21部門もの幅広い産業分野に及んでいる。特に、農業、水産、森林など、

シンガポールではエンジニアの範疇にはないものがあり、興味を引かれる。

- ② 総合技術監理 (Engineering Management) という分野は非常に興味深い。シンガポールでも、現在多くの分野を横断した技術、たとえば安全 (Industrial Safety) などの業務が PE に求められている。
- ③ シンガポールでも日本と同様、IEA (International Engineering Alliance) や FEIAP (Federation of Engineering Institutions of Asia and Pacific) などの国際活動は重視しており、IPEJ の活動には着目している。



写真2 IES からの記念品の贈呈

その後、IES 団長の Alfred Wong 氏から IES の紹介があった。シンガポールでは PE (Professional Engineer) は Civil, Mechanical, Electrical の 3 部門しかなく、他分野にはそれぞれ別の Professional Registration の仕組みがある。一方、英国の Chartered Engineer への登録も奨励しており、IES にはそのためのプログラムも用意されているようである。

IES は、1966 年に設立されたシンガポールを代表するエンジニア組織である。また、ワシントンアコードに則った高等技術者教育の資格認定の役割も担っており、大学等と共同で会員の研修コースを設けているのが特徴である。

今回の来日メンバーの多くは、水処理などの水道設備のエンジニア、ビルディングの建設や設備のエンジニアで、シンガポールでもインフラ整備のために PE が活用されているとのことである。

日本の技術にはもちろん大きな興味を持っており、できる限り多くの技術協力の道を広げたいという意識が十分に窺えた。

最後は自由な意見交換を行ったが、特に IES からは今後も日本の技術士と多くの交流を持っていきたいという希望が多かった。日本の技術士がインフラ系の建設事業では活用されているが、他の分野では業務独占の要件になっていないことなど、シンガポールでも同じような環境にあるという見解もあった。

会議全体を通じて、非常にリラックスした雰囲気の中にも真摯な質疑応答があり、IES 側の真面目な姿勢に好感が持てた。

最後に IES から、小林委員長に記念品の贈呈があり、約 2 時間の会合が成功裏に終わった。

4 今後の課題

もともと日本とシンガポールは個々の産業界では多くの繋がりがあるが、Professional Engineer としての相互交流はなかったに等しい。

IPEJ がオーストラリア技術者協会 (EA) や英国機械技術者協会 (IMechE) と友好協定を結んでいることを説明したが、これに対し IES も興味を示し、次はぜひ IPEJ と IES で協定を結べるように交流を深めていきたいという声が大きかった。

シンガポールの技術水準の高さは、我々もよく知るところであり、IES との相互交流は IPEJ にとっても多くの利点が見込まれる。

IEA や FEAIAP などの国際会議でも、シンガポールとの連携は大きな力となるはずである。

今後、国際委員会の中でシンガポールとの交流を深めていくための検討を開始したいと考えている。衛生工学部会をはじめとした関係部会、関係委員会、日本技術士会事務局の協力も得ながら、検討を進めていくつもりである。

笹口 裕昭 (ささぐち ひろあき)
技術士 (金属/建設/総合技術監理部門)

国際委員会副委員長
笹口技術士事務所 所長
e-mail : sasaguchi@jcom.home.ne.jp

